

北海道大学大学院理学研究科・理学部

広

報

第29号 2004年 (平成16年)10月



- 理学部でオープンユニバーシティと体験入学を実施
- <u>国際研究集会</u>
 <u>「第19回ヒマラヤーカラコラムーチベットワークシ</u>
 <u>ョップ」を開催</u>
- 外国の研究機関との共同研究
- 海外からの来訪者
- 学会賞等の受賞
- 学位授与

- 新任教官紹介
- 訃報
- 人事異動
- 各種委員会委員
- 行事予定

理学部でオープンユニバーシティと体験入学を実施

オープンユニバーシティ

高校生や保護者、一般市民の方々に北大を 知っていただくための「大学開放」が、8月 2日(月)に全学一斉に行われました。

理学部においても、当日午前と午後の2サイクルが実施され、5号館低層棟2階の大講堂に、遠くは広島県など道内外約100校から262人(うち道外87人、同伴父母等の未記帳者を加えると約300人)が参加しました。

学部長の歓迎挨拶に続いて、各学科長・学 科委員等から、各学科・分野の教育内容等に ついて、 それぞれユニークな紹介がされ、高校生たち の真剣な表情が印象的でした。

また、昨年度から始めたCOE紹介シリーズ第2弾として、特別講演会『自然界における多様性の起源と進化』-21世紀COEプログラム「新・自然史科学創成」-が実施され、拠点リーダーの岡田理学研究科長がパワーポイントを駆使してユーモアたっぷりに講演しました。



学科紹介の様子と真剣に聞き入る生徒たち



新・自然史COEについて紹介する 拠点リーダーの岡田理学研究科長

高校生体験入学

オープンユニバーシティ翌日の8月3日 (火) (数学科と生物科学科の一部及び地球 科学科(地球物理学)のコースは4日までの 2日間)理学部体験入学が行われました。

高校生に自然科学への関心を呼び起こすとともに、理学部で行われている教育・研究の実際を理解してもらうため、「高校生一日入学」として始められたこの催しは、今年で13回目となります。

平成8年度から文部省(現文部科学省)の 委託研究事業として続けられてきた「高校生のための数学講座」をはじめ、5学科7分野のすべてが平成16年度の体験入学にとりく み、理学部全体として計18コースが実施されました。

今年の体験入学には、遠く兵庫県など道外 24校を含む62校から合計138人(うち道外28 人)もの高校生たちが参加しました。 参加した生徒からは、「北大を少し身近に 感じることができた」、「大学生の気分にな れたようで嬉しかった」、「食堂の昼食が安 くておいしかった」、「思っていたより清潔 で、学生も親切で、北大に来たいという思い がより強くなった」、「本当はあきらめかけ ていた北大受験だがもう少し頑張ってみよう と思った」、「あまりの広さに道に迷ってし まったが、おかげで多少北大に詳しくなっ た」などの感想文がたくさん寄せられまし た。以下に、生徒たちの感想文のうちから各 コースに関する部分を抜粋して紹介します。

なお、体験入学初日の修了式に引き続き、 本学学術国際部国際企画課主催による講演会 「星の生涯とその冒険」が開催され、多くの 高校生たちが参加しました。講演終了後も講 師のDr.Icko Iben,Jr. と司会者の岡田理学研究 科長を取り囲んで質問を続ける熱心な高校生 たちの姿が印象的でした。





開校式の様子と修了証書を受け取る高校生

《感想文の抜粋》

数学科

「①やさしい数学の話」

- ・正直難しくて分からない部分が殆どだった が、高校では絶対に出てこない言葉や定理 などをたくさん知って楽しかった。
- まだ1年生なので授業内容がよく分からなかった。習っていないことばかりだったので少しついて行けなかった。
- 先生方の教え方は上手だと思う。
- 数学はまだまだ学ぶことがたくさんあると わかり、意欲も湧いてきた。
- ・「交流会」も面白かった。現役の先輩とも 話せ、細かいところも聞けて良かった。
- 「平面写像のカオス」は全く分からなかった。みんな寝てたけど少しは笑いをとった方がリラックスできて集中すると思う。内容を易しくして問題演習などをやらせた方が良いと思う。
- ・「平面写像のカオス」は数学的視点から見た力学についてとても興味のあることだったのでしっかりとノートをとった。しかし、Henonマップ以降の話は難しくてついて行けなかった。「数学と物理の境界領域」についての講義は面白かったが、スクリーンが見づらかったので改善して欲しい。

- ・「平面写像のカオス」は振り子の運動を観察したり縞紋様を見いだしたりとても良かった。
- ・9割近く理解できずに悩んだが、画面で振り子がフラリフラリと動いていたのにチョット感動。
 - あんなことができるとはスゴイですね。
- ・「高次元の正多面体」は証明っぽいと感じたが高校の学習とはかなり違うなあと思った。
- ・3次元4次元という空間が創造しづらく、 n次元空間に何個の正多面体が存在するか は難しかったが、しっかりと式で証明され た点がとても感動的だった。
- 「高次元」はあまり理解できなかったし、 画面も見づらかった。
- ・「高次元」のところでは生まれて初めてわからな過ぎて頭が痛くなるという非常に貴重な体験をさせてもらったが、反面ますます大学への興味が増えた。
- "(a+b) n = ?"ですが、講師の方に好感が持てた。
- ・内容が良く分かり、話も聞き取り易かっ た。
- 「(a+b) n = ?」は高校の学習と似ていて楽しく聞けた。
- ・見たことのなかった例 (ab≠ba) がとても

物理学科 (②~⑦)

「②レーザー光で探る超高速の世界」

- 物質固有の振動を目で見ることができるの は素晴らしい。
- ・楽しかった。今まで化学をやりたいと思っていたが物理もいいなと思ってしまった。
- ・研究は、地道な作業・実験を積み重ねているのだと知って大変なことなのだと感激した。

「③極低温の世界

- 液体ヘリウムの超流動 - 」

- ・とても面白かった。実際に液体窒素にさわったり、遊んだりできたのは貴重な体験。
- ・超電導・超流動というおそらく学校では実 験しないようなことができたので良い経験 になった。
- ・「液体ヘリウムは壁を走り回る」ということを知って興味を持ち参加した。実際はおだったのでショックを受けたが、低温の世界は面白い。

化学科 (8~10)

「8生命を化学的に解き明かそう! -遺伝子とタンパク質が織りなす 生命の不思議-|

- 「この学校の設備はスゴイ」と心の中から 言えるような体験入学だった。
- ・何も勉強しないで行ってみるとジゴクを見るはめになってしまい、先に予習をするように言ったほうがもっと良いと思う。
- ・来年は先輩になるかも知れない人にも専門 の研究分野など修士・博士課程でやること を具体的に教えてもらい意欲が湧いた。 「来年来たい!」。

「④走査トンネル顕微鏡で見る原子」

・「陽子は何からできているのだろうか?」 と「原子・核の魔法数」は、高校では教わらない奥深いところを説明してくれて本当に面白かった。核子と中間子の部分にとても興味をそそられた。

「⑥高温超伝導」

・液体窒素にバナナを入れたらくぎを打てる ほどに堅くなったのには感激!「一家に一 台液体窒素」と思った。

「⑦電波と物理

- 核からの信号をつかまえる 」
- ・機械の種類の多さに驚いた。
- ・院生の方の大学の話が大変参考になった。

「⑨新しい物質を作る方法を教えます」

・自分たちの身の回りにあるものはこーゆー 風に試行錯誤したうえでできあがっていっ たものなんだなと思った。一度溶かしたも のを結晶に戻す段階を見れたのは良かった し、あのマジックのクロマトグラフィー (?)もすごく良かった。

「⑩レーザーと顕微鏡を使った化学」

・テーマを見て一日中コロイド粒子の運動を 見ているだけかと想像していたが、いざ始 まってみると、反応の結果がその容器によ って変わるというとても興味深いものだっ た。金の絵馬を作るというやったことのな い実験だったが結構良いものができたと思

う。また、光によるピンセットを使って物をつかむところなどはとても面白く、やってみたいと思える内容だった。

生物科学科(生物学: ①~④)

「⑪北大植物園淡水生動物相の解明」

- ・3年生の夏休みにこんな遠くまで来るのも どうかと思ったが、どうしても一度来たく て来てしまった。植物園での採集や顕微鏡 は充実した楽しい時間だった。この素晴ら しいキャンパスで学ぶことを目指してこれ からもがんばりたい。
- ・理学部に対する堅苦しいイメージがすっかりなくなった。川の中の小さな生物が沢山いるのに驚き、まだまだ自分は生物のことを知らないなーと思った。

「¹² 再生生物学入門 - 生物はどこまで再生できるか-」

- ・実験動物にかえるがたくさんいて驚き、理 学部のイメージが変わったのを実感。本当 はあきらめかけていた北大受験ですが、も う少しがんばってみようと思った。
- ・高校ではあり得ない種々の装置に囲まれて の実験に大満足。

「13目に見えない生物 - 細菌 - ~ - 細菌の世界とその利用 - 」

・普段見慣れない機械に触れることができ充 実した時間を過ごせ、細菌に前より興味を もった (あの大腸菌はどうなるのでしょう か?)。

「⑭生物科学の最先端 (遺伝子・発生・脳・進化) に関する実習を体験しよう」

- ・生まれて初めてカエルに触った、無理を言って「アルビノ」を見せていただき感動した、ハチの脳の解剖は引率の方がとても優しく教えてくださり感謝。
- ・時間を忘れて楽しめた、おそらく自分の学校で電子顕微鏡にさわったのは自分だけの はずで色んな実習や実験の体験を自慢できる。
- ・生命の発生する瞬間を見ることができて感動した。
- ・自分の手で直接アフリカツメガエルの卵を 産ませることができ、且つ人工授精までも 体験させていただけたのは本当にタメにな った。
- ・元々生物は好きだが、今回の実習でさらに 生物の楽しさがわかった。

生物科学科(高分子機能学:15~16)

「¹⁵アトムのちからで解き明かす タンパク質の謎」

- ・タンパク質のすごさを知ることができた、 NMRとMSでの実験は実際に世界の研究 者が使っているものなので緊張した。
- ・リゾチームなどの分析を見ることができて 背中がゾクゾクするくらいうれしかった。

「16コンピュータによるドラッグデザインと 薬剤合成における最新分析機器の活用」

- ・ (北大が) 車で移動するほど広いとは思わ なかった。
- ・ノーベル賞を受賞した田中さんの分析法が 見られて良かった。
- ・生物学科でも薬剤合成に関する勉強ができ るのだと知って驚いた。

初めて実験らしい実験ができて楽しかった。

地球科学科(地球惑星物質科学)

「⑪地球を探る最新の科学」

- ・先生方の熱意にとても驚いた。微生物の化石は生物学に関心のある私にとってとても良い刺激になった。生物学以外の地球科学の分野にも視野が広がった。
- ・宇宙のことについてやりたいなーと思っていたが、先生のお話がおもしろくわかりやすくどんどん話の中に入っていった。
- ・いろいろな分野がいろいろな分野とつながっているように思えた。微生物というミクロンの世界が宇宙の隕石などのマクロの世界に入ったりととても興味深かった。
- ・深海で圧縮されたカップラーメンの入れ物 などもおみやげにもらいとても良い体験を させてもらった。

ありがとうございました。

・最先端の顕微鏡も触れさせていただいて、 化石を見て丁寧な説明もしてくださったの でワクワクした。

今もワクワクしている。

地球科学科 (地球物理学)

「18自然のメカニズムを探る」

- ・フラフンホーファー線(ママ)の実験が楽しかった。波の実験や雪の結晶づくりは普段できないことができてとても良い経験になった。また、身近な地震の仕組みを知ることができて良かった。
- ・「レイノルズ数実験装置」を使う実験もしてみたかった。
- ・一番興味を惹かれたのは、高校の勉強と違って、まだ分かっていないところがいっぱいあるという点だった、そういう点を大学に入ったら解明したい。



講演会「星の生涯とその冒険」で質疑に答える 藤本教授と司会の岡田研究科長



終了後も熱心に質問を続ける生徒たちと 丁寧に説明するDr.Icko Ibeb,Jr

目次TOPへ

国際研究集会「第19回ヒマラヤーカラコラムーチベットワークショップ」を開催

国際研究集会(19th Himalaya-Karakoram-Tibet Workshop: HKT19)が7月9日~13日にニセコ町、ニセコ東山プリンスホテルにおいて開催され、国外(13ヶ国)からの参加者72名を含む117名の参加をえて、盛会のうちに終了した。

現代地球科学のパラダイムであるプレートテクトニクス説は1970年代初期に確立し、その後深化してきたが、それはおもに海洋地域の調査・研究に支えられてきた。しかし、海洋よりはるかに複雑な地質構成や地質構造をもつ大陸の形成過程は、地球表層部をおおうプレート(剛板)の相対運動を基本とするプレートテクトニクスのスキームでは説明できないことも多い。第三の極地といわれるヒマラヤ-カラコラム-チベット(HKT)地域は代表的な大陸-大陸衝突帯であり、80kmちかい地球でもっとも厚い大陸地殻をもつ。したがって、この地域の地球科学的研究は大陸地殻の形成過程やその機構を解明するうえで極めて重要であり、近年ますます注目されている。いっぽう、地球上で最高かつ最広の隆起域であるHKT地域の存在は、地球の気候環境の変遷、とくに氷期の盛衰やアジアモンスーンの成立と変遷にも大きく関わっている。さらに、この地域の上昇と気候変遷が生物種の放散や分化に与える影響も注目される。

本ワークショップは、HKT地域の地球科学に関する唯一の国際研究集会として、おもに同地域の地質・層序・岩石・変成作用・地質構造・テクトニクス・地質災害などに関する研究発表・討論および現地情報の交換を目的として、1985年レスター(イギリス)での第1回以来毎年開催されている。このたびは日本で初めての開催である。

本ワークショップは母体となる恒常的組織はなく、そのつど開催が認められた国の関係者が組織委員会を作って主催するという方式で行っている。今回は本研究科地球惑星科学専攻の在田ー則教授、知北和久助教授、西 弘嗣助教授、COE研究員Pitambar GAUTAM博士、大学院地球環境科学研究科の渡辺悌二助教授、および国内5大学の研究者からなる同ワークショップ組織委員会と北海道大学21世紀COE「新・自然史科学創成」・名古屋大学21世紀COE「太陽・地球・生命圏相互作用系の変動学」・理学研究科地球惑星科学専攻との共催により開催された。日本開催に際しては、従来の地球科学関係のセッションのほかに、とくに特別セッション「ヒマラヤ・チベットの上昇とアジアモンスーン:第三紀後期から現在までの地殻変動、気候変化および生物対応の相互作用」を設けた。

ワークショップは9日夕方からの受付から始まった。国際便の関係上千歳空港からの最後のチャーターバスがホテルに着いたのは深夜11時過ぎであった。翌日からは三日間、毎日午前8時30分から午後6時まで、1時間の昼食、午前1回と午後2回のコーヒーブレイクをはさみ。以下の5つのセッションで117篇(口頭63篇、ポスター54篇)の論文が発表された。136篇からなるアブストラクト集は学術雑誌「Himalayan Journal of Sciences」(www.himjsci.com)の特集号(vol. 2, Issue 4, pp. 77-297, July 2004)として出版された。

- 1. 衝突テクトニクスと変形・変成過程
- 2. 火成活動・地球化学・年代学
- 3. 層序学・堆積盆解析

- 4. 地形発展・地質災害・環境
- 5. ヒマラヤ-カラコラム-チベットの上昇とアジアモンスーン

ワークショップ開催に当たっては、共催していただいた北大21世紀COE「新・自然史科学創成」、名大21世紀COEをはじめ、北海道、二セコ町および財団などからご援助をいただき、アジア諸国からの参加者を中心に37名に対し、参加費(宿泊費を含む)あるいは旅費の援助を行うことができた。このワークショップはこれまでおもにヨーロッパ諸国で開催されていたため、ヒマラヤ周辺諸国からの参加はあまり多くなかったが、今回多数の参加があったのは、それらの地元の国々でのヒマラヤ・チベット研究をサポートするという点でも大きな意義があった。

ヒマラヤ・チベット地域の上昇とそれが気候変動や生物多様化に及ぼす影響についてはこれまでも種々議論されてきたが、それぞれ別個に議論されがちであった。今回のように各分野の研究者が一堂に会して議論した国際集会は初めてのことと思われる。結果的には、上昇テクトニクス・気候変動・生物多様性のそれぞれの時間スケールが異なり、議論が噛み合わないところがあったが、お互いにどのようなことを考えているかを理解することができた。HKT地域を舞台としたこのような学際的研究は将来不可欠であり、今回はその糸口となった。今後、各分野での時間軸の設定とその分解能の向上によって議論が噛み合い、共同研究に発展することを期待したい。

11日夜には逢坂誠二二セコ町長、片倉晴雄理学研究科副研究科長をメインゲストに歓迎レセプションを行った。政治的には仲が良いとはいえない(最近、融和の方向にあるが)、インドの女性とパキスタンの男性がインドのラブソングをデュエットしたのが印象的であった。温泉とくに野天風呂は、予想に反して外国人にも好評であった。13日には67名が参加して本研究科地球惑星科学専攻の中川光弘教授の案内により有珠火山-昭和新山の地質巡検を行った。まぢかでのダイナミックな噴気活動やマグマ隆起による断層地形は、火山にはあまりなじみのない大陸からの参加者には印象的だったようだ。

本ワークショップのプロシーディングスは国際誌「Journal of Asian Earth Sciences」および「The Island Arc」の特集号として2005年度に刊行する予定で準備をすすめている。

なお、プログラムはウェブサイト

(http://www.ep.sci.hokudai.ac.jp/~arita/HKT/index.html) でみることができる。 アブストラクト集もこのウェブサイトに載せる予定である。

(文責:在田一則)











外国の研究機関との共同研究

理学研究科生物科学専攻(高分子機能学)助教授 門 出 健 次

(1) 共同研究名

Synthesis, structure, and biological activity of indole phytoalexins and their analogs.

(インドール系ファイトアレキシン及びその誘導体の合成・構造・生理活性)

共同研究を行った研究機関・研究者職・氏名

Assoc. Prof. Dr. Peter Kutschy,

Department of Organic Chemistry Faculty of Natural Sciences

P.J. šafárik University Slovak Republic

(2) 共同研究名

Structure - Based Approach for Discovery of Small Molecule Bcl-2 I nhibitors.

(構造情報に基づいた抗腫瘍性Bcl - 2 阻害低分子の開発)

共同研究を行った研究機関・研究者職・氏名

York Tomita Assistant Professor

Georgetown University Medical Center, Washington DC, USA

理学研究科生物科学専攻(高分子機能学)教授 西 村 紳 一 郎

(1) 共同研究名

Persubstitued Syclodxtrin-based glyco clusters as inhibitors of protein-Carbohydrate

recognition using purified plant and mammalian Lectins and wild-type and Lectin-gene-

transfected tumor cells as targets.

共同研究を行った研究機関・研究者職・氏名

Prof. Hans-Joachim Gabius Chair of Biochemistry Institute of Physiological Chemistry Ludwig-Miximilians-University Munich

<< Back to TOP</pre>
Next Page >>

海外からの来訪者

期間:平成16年7月1日~9月30日

受入れ専攻等名>> <u>数学専攻 | 物理学専攻 | 化学専攻 | 生物科学専攻 | 地球惑星科学専攻</u>

(受入れ専攻等名:数学専攻)

年 月 日 (期間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的
16.7.11~7.19	ドイツ・ダルムシュタット工科大学・ 研究員・Jurgen Saal	「異方性と拡散による形態変化の数理解析」に関する研究打合せ
16.7.15~7.18	アメリカ・コロンビア大学・ 助教授・Peter Ozsvath	研究集会にて連続講演
16.7.15~8.15	アメリカ・The Penn State University・ 助教授・Chun Liu	第29回偏微分方程式論札幌シンポジウ ムに出席のため
16.7.19~7.22	フランス・New York Univ.・ 助教授・Syilvia Serfaty	「異方性と拡散による形態変化の数理解析」に関する研究打ち合わせ、講演
16.7.20~7.21	イギリス・University of Manchester Institute of Science and Technology・ 研究生・khadiga Arwini	研究集会「Workshop on Affine Immersions and Information」
16.8.1~8.12	フランス・Université de Tours・ 助教授・Olivier Ley	第29回偏微分方程式論札幌シンポジウムに出席のため
16.8.1~8.7	中国・Wellesley College・ 教授・Charles Bu	第29回偏微分方程式論札幌シンポジウムに出席のため
16.8.3~8.27	アメリカ・Univ.of Illinois at Chicago・ 教授・Jerry Bona	COEプログラムSpecial Months「非線型 分散方程式」
16.8.3~8.27	アメリカ・Univ.of Memphis・ 助手・Hongqiu Chen	COEプログラムSpecial Months「非線型 分散方程式」
16.8.20~9.4	フランス・Université de Paris-Nord・ 教授・Fabrice Planchon	COEプログラムSpecial Months「非線型 分散方程式」
16.8.22~9.4	フランス・Université Cergy-Pontoise・ 助教授・Pierre Raphael	COEプログラムSpecial Months「非線型 分散方程式」
16.8.30~9.5	インド・Rutgers大学(New Jersey州立大学)・ 教授・Siddhartha SAHI	「ハリシューチャンドラ加群に付随した 等方表現とべき零軌道理論」に関する研 究打合せ
16.9.1~9.8	台湾・台湾国立大学・ 準教授・Jenn-Nan Wang	「波動方程式族の逆問題」に関する研究打合せ
16.9.5~9.19	ブルガリア・Université Lille I・ 助教授・Nikolay Tzvetkov	COEプログラムSpecial Months「非線型分散方程式」

16.9.9~9.23	ロシア・モスクワ独立大学・助教授・田辺 晋	「外微分式系への応用特異点論」について 研究打合せ
16.9.9~9.22	フランス・リュミニ数学研究所・ 主任教授・Jean-Paul Brasselet	第3回日仏特異点シンポジウム「幾何学とトポロジーにおける特異点」
16.9.11~9.18	フランス・Universite Toulouse・ 博士課程学生・Guillaume Rond	第3回日仏特異点シンポジウム「幾何学とトポロジーにおける特異点」
16.9.11~9.18	アルジェリア・Universite de Paul Sabatier・ 博士課程学生・Charef Beddani	第3回日仏特異点シンポジウム「幾何学 とトポロジーにおける特異点」
16.9.11~9.19	フランス・メディテラ二大学・ 助教授・Anne Pichon	特異多様体上の留数に関する研究打合せ と第3回日仏特異点シンポジウムに出席 のため
16.9.12~9.18	ドイツ・University of Hannover・ 教授・Wolfgang Ebeling	第3回日仏特異点シンポジウム「幾何学とトポロジーにおける特異点」
16.9.12~9.18	フランス・Universite de Nice-Sophia Antipolis・ 助教授・Vladimir Kostov	第3回日仏特異点シンポジウム「幾何学 とトポロジーにおける特異点」
16.9.12~9.18	フランス・Universite Toulouse・ 研究員・Michel Vaquie	第3回日仏特異点シンポジウム「幾何学とトポロジーにおける特異点」
16.9.12~9.18	フランス・University of Toulouse・ 博士課程学生・Camille Plenat	第3回日仏特異点シンポジウム「幾何学とトポロジーにおける特異点」
16.9.12~9.18	フランス・Universite de Provence・ 助教授・Nicolas Dutertre	第3回日仏特異点シンポジウム「幾何学とトポロジーにおける特異点」
16.9.12~9.19	フランス・Louis Pasteur University of Strasbourg・助教授・Vincent Blanloeil	第3回日仏特異点シンポジウム「幾何学とトポロジーにおける特異点」
16.9.12~9.19	Universytet Jagiellonski Instytut・ 研究員・Guillaume Varette	第3回日仏特異点シンポジウム「幾何学とトポロジーにおける特異点」
16.9.12~9.19	フランス・Institut Fourier Universite Grenoble I・ 教授・Gerard Gonzalez-Sprinberg	第3回日仏特異点シンポジウム「幾何学とトポロジーにおける特異点」
16.9.12~9.19	ポーランド・Universite de Savoie Campus scientifique・ 研究員・Anna Stasica	第3回日仏特異点シンポジウム「幾何学とトポロジーにおける特異点」
16.9.12~9.19	ベトナム・International Center for Theoretical Physics・ 教授・Le Dung Trang	第3回日仏特異点シンポジウム「幾何学とトポロジーにおける特異点」
16.9.12~9.19	フランス・Universite de NiceSophia Antipolis・ 助教授・Georges Comte	第3回日仏特異点シンポジウム「幾何学とトポロジーにおける特異点」
16.9.12~9.19	トルコ・メキシコ国立自治大学研究員 (兼ユルドウズエ科大学助教授)・ 助教授・Meral Tosun	特異多様体上の留数に関する研究打合せ と第3回日仏特異点シンポジウム「幾何 学とトポロジーにおける特異点」
16.9.12~9.20	フランス・Universite Paris 7 Denis Diderot・ 助教授・Patrick Popescu-Pampu	第3回日仏特異点シンポジウム「幾何学とトポロジーにおける特異点」
16.9.12~9.19	フランス・イギリス・Université of Provence・ 教授・Devid Trotman	特異多様体上の留数に関する研究打合せ と第3回日仏特異点シンポジウム「幾何 学とトポロジーにおける特異点」
16.9.15~10.1	フランス・Université de Paris-Sud・	COEプログラムSpecial Months「非線型

	教授・Jean Ginbre	分散方程式」
16.9.17~9.25	アメリカ・New York Univ.・ 教授・Jalal Shatah	波動場の幾何と解析に関する打合せと COEプログラムSpecial Months「非線型 分散方程式」
16.9.20~10.1	ドイツ・Universitat Dortmund Fachbereich Mathematik・ 教授・Herbert Koch	COEプログラムSpecial Months「非線型 分散方程式」
16.9.23~9.27	アメリカ・アリゾナ州立大学・ 教授・Alex Mahalov	COEプログラムSpecial Months「非線型 分散方程式」
16.9.26~9.29	イスラエル・テル アビブ大学・ Senior Lecturer・Paul Biran	セミナーと講演「Lagrangian embeddings and algebraic」

(受入れ専攻等名:物理学専攻)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目的
16.7.1~10.31	アメリカ・イリノイ大学・ 名誉特別教授・Iben Icko Jr.	日本学術振興会 外国人著名研究者招聘 事業による滞在
16.8.11~8.20	アメリカ・Michigan State University・ Professor・Pawel Danielewicz	研究上の議論
16.9.18~9.21	チェコ・チェコ科学アカデミー・ 教授・Jan Fousek	強誘電体ドメインダイナミックス研究打 合せ
16.9.25~10.3	ドイツ・ブラウンシュヴァイク工科大学・ Junior Professor・Stefan Süllow	「強相関電子系の構造と乱れによる異常物性」に関する共同研究

(受入れ専攻等名:化学専攻)

年 月 日 (期間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目的
16.7.4~7.8	アメリカ・ウィスコンシン大学・ 教授・S.F.Nelsen	学術講演
16.8.1~8.4	中国・南京大学・ 教授・Ren-Gen Xiong	錯体化学に関する研究打合せ及び討論
16.8.1~8.4	中国・南京大学・ 教授・Zhong-Ning Chen	錯体化学に関する研究打合せ及び討論
16.8.1~8.4	中国・パダボーン大学・ 教授・Yuan-Gen Yau	錯体化学に関する研究打合せ及び討論
16.8.25	アメリカ・ブルックヘブン国立研究所・ 研究員・武田 憲彦	学術講演
16.9.5~9.7	フランス・技術大学・ 教授・Samir Z.Zard	学術講演
16.9.25~9.27	ドイツ・キール大学・ 教授・Rainer Herges	学術講演

(受入れ専攻等名:生物科学専攻)

年 月 日	来 訪 者	目的
(期 間)	(国名・所属・職名・氏名)	

15.7.16~ 16.7.13	中国・浙江大学・ 助教授・Sheng Kuichuan	COE研究員としてバイオとナノを融合する 新生命科学に関する研究に携わるため
15.7.16~16.7.9	中国・浙江大学・ 学生・Jian Zhouting	COE研究員としてバイオとナノを融合する 新生命科学に関する研究に携わるため
16.7.21~7.28	中国・浙江大学・ 教授・Chen Kansheng	「高分子ゲルを用いた生物様運動素子の 創成」に関して御教示頂くため
16.9.28~9.30	ドイツ・ザールランド大学・ 教授・Uli Müller	企画調査のため

(受入れ専攻等名:地球惑星科学専攻)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	
16.3.29~5.27	インド・インド工科大学ルールキー・ 教授・Kumar Arvind JAIN	学振外国人招聘研究者「ヒマラヤ衝突帯 における引張テクトニクス:山脈上昇と 構造浸食におけるその役割」に関する共 同研究
16.7.9~7.14	フランス・グルノーブル大学・ 講師・Parcal Huyghe	国際ワークショップでの招待講演 他
16.8.9~8.27	Department of Astronomy and Space Science, Chungbuk National University • Prof.Kyung-Won Suh,	研究討議

学会賞等の受賞

北海道大学大学院理学研究科化学専攻 石坂昌司助手は、「時間分解全反射蛍光法による液液界面の微視的構造と機能評価」により、平成16年9月2日、日本分析化学会から、日本分析化学会奨励賞を受賞されました。

北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻 伊藤悦朗助教授は、「Ito I, Watanabe S, Kimura T, Kirino Y, Ito E, Negative relationship between odor-induced spike activity and spontaneous oscillations in the primary olfactory system of the terrestrial slug Limax marginatus. Zoolog Sci. 2003 Nov;20(11):1327-35.」「Ito I, Watanabe S, Kimura T, Kirino Y, Ito E, Distributions of gamma-aminobutyric acid immunoreactive and acetylcholinesterase-containing cells in the primary olfactory system in the terrestrial slug Limax marginatus. Zoolog Sci. 2003 Nov;20(11):1337-46.」により、平成16年9月11日、(社)日本動物学会から、Zoological Science Awardを受賞されました。

北海道大学大学院理学研究科化学専攻 内藤俊雄助教授は、「A new optical doping method toward molecular electronics」により、平成16年9月15日、Nano and Giga Challenges in Microelectronics Program Committeeから、Nano and Giga Chllenges in Microelectronics, Cracow Poland, September 2004 Presentation Awardを受賞されました。

北海道大学大学院理学研究科化学専攻 鈴木孝紀教授は、「分子素子を目指したエレクトロクロミズム系の新展開:多重出力と双安定性」により、平成16年9月24日、構造有機化学討論会から、第一回 野副鉄男教授記念奨励賞を受賞されました。

学位授与

平成16年9月24日学位授与者(3名)

(課程博士)

岡村 昌幸(化学専攻)

Construction and Spectroscopic and (Photo)electrochemical Characteristics of Multilayer Assemblies of Metal and Semiconductor Nanoclusters

(主查: 魚崎 浩平教授)

黒河内 政樹(生物科学専攻)

Novel methods for functional proteomics and glycomics based on matrix-assisted laser desorption/ionization time of flight (MALDI-TOF) mass spectrometry

(主査:西村紳一郎教授)

山 崎 徹(地球惑星科学専攻)

Petrogenesis and tectonic setting of two-contrasted magmatism in the Wadi Haymiliyah area, Haylayn Block, central part of the Oman ophiolite, with special reference to the "Ophiolite Problem"

(主査:在田一則教授)

新任教官紹介

ひきはら とし や

引 原 俊 哉 (物理学専攻凝縮系物理学講座助教授)

(平成16年9月1日採用)



最終学歴:平成12年3月神戸大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了、学位:「博士(理学)」、略歴:平成11年1月日本学術振興会特別研究員(~平成13年3月)、平成12年4月関西大学文学部非常勤講師、平成13年4月物質・材料研究機構計算材料学研究センターCOE特別研究員、平成15年4月理化学研究所物性理論研究室協力研究員、専門分野:低次元強相関電子系の物性に関する研究

わたなべ つよし **渡 邊 剛**

(地球惑星科学専攻地球惑星進化科学講座講師)

(平成16年10月1日採用)



最終学歴:平成11年3月北海道大学大学院地球環境科学研究科地圏環境科学専攻博士課程修了、学位:「博士(地球環境科学)」、略歴:平成11年4月国立科学博物館特別研究生、平成11年7月地質調査所海洋地質部非常勤職員、平成12年1月日本学術振興会特別研究員(国立科学博物館)、平成12年9月オーストラリア国立大学客員研究員、平成15年1月東京大学海洋研究所産学官連携研究員、平成15年10月フランス国立研究所(CNRS)博士研究員(日本学術振興会海外特別研究員)、専門分野:古環境学、同位体地球化学

わたひき まさあき

綿引雅昭(生物科学専攻形態機能学講座助手)

(平成16年10月1日採用)

最終学歷:平成9年3月北海道大学大学院地球環境科学研究科生態環境科学専攻博士後期課程修了、学位:「博士(地球環境科学)」、略歷:平成7年4月北海道大学教養部非常勤講師、平成8年4月日本学術振興会特別



研究員(~H10.3)、平成10年8月英国エジンバラ大学博士研究員、専門分野:植物細胞分子生物学、植物生理学

かくご あきら **角 五 彰**

彰 (生物科学専攻生体高分子設計学講座助手)

(平成16年10月1日採用)



最終学歴:平成15年3月北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了、学位:「博士(理学)」、略歴:平成15年4月北海道大学大学院理学

研究科科学研究支援員 専門分野:高分子科学

<< Back to TOP</pre>
Next Page >>

計 報

教授 菅野 孝三氏(享年63歳)

本研究科数学専攻代数構造学講座教授菅野孝三氏は、病気療養中のところ平成16年8月31日(火)午前11時50分、ご逝去されました。 ここに謹んで哀悼の意を表します。

名誉教授 増渕 法之氏 (享年79歳)

本学名誉教授増渕法之氏は、病気療養中のところ平成16年9月9日(木)午前11時16分、ご逝去されました。 ここに謹んで哀悼の意を表します。

<< Back to TOP</pre>
Next Page >>

人事異動

<正規職員>

平成16年8月31付け発令

(辞職)

事務長補佐 南山勝美

平成16年9月1日付け発令

(採用)

物理学専攻凝縮系物理学講座 助教授

独立行政法人理化学研究所 協力研究員 から 引 原 俊 哉

(転出)

東京大学大学院数理科学研究科教授へ

平成16年9月6日付け発令

(育児休業)

化学専攻事務室

(平成16年9月6日~平成17年7月10日) 西村公子

平成16年9月8日付け発令

(育児休業)

化学専攻事務室

(平成16年9月8日~平成17年3月31日) 成田佳子

平成16年9月11日付け発令

(採用)

化学専攻事務室

北海道大学契約職員(事務補佐員)より 辻 幸恵

平成16年9月16日付け発令

化学専攻事務室 藤井 ひとみ

平成16年10月1日付け発令

(採用)

フランス国立科学研究所 博士研究員より

生物科学専攻形態機能学講座 助手 綿 引 雅 昭

エジンバラ大学 博士研究員より

生物科学専攻生体高分子設計学講座 助手

北海道大学契約職員(科学研究支援員)より 角 五 彰

(昇任)

数学専攻代数構造学講座 教授

同講座助教授より 石川剛郎

(転入)

事務長補佐

小樽商科大学財務課課長補佐より 橋 詰 伸 一

庶務係

国立大雪青年の家庶務課庶務係より 熊 坂 浩

(配置換)

庶務係

総務部人事課給与管理係へ 渡 邊 勉

教務係

企画部企画調整課経営分析室業務分析係へ

会計係

文学研究科・文学部会計係へ 石 田 玉 美

教務係

監査室監査係より 原田 奈緒子

(採用)

生物科学専攻 技術職員

北海道大学契約職員(技術補佐員)より 山本宏子

会計係

新規採用 鈴 木 孝 幸

<非正規職員>

平成16年7月5日付け発令

(採用)

地球惑星科学専攻	技術補助員	前	Ш	健	=
地球惑星科学専攻	技術補助員	大久	へ保		智
地球惑星科学専攻	技術補助員	Ξ	枝	俊	介
地球惑星科学専攻	技術補助員	今	野	祐	多

平成16年7月9日付け発令

(辞職)

生物学専攻	COE研究員	姜	舟		婷
生物学専攻	COE研究員	罗			琼
生物学専攻	COE研究員	張		玉	忠

平成16年7月13日付け発令

(辞職)

生物学専攻 COE研究員	盛	奎	Ш
--------------	---	---	---

平成16年7月16日付け発令

(任期満了)

生物学専攻	COE研究員	高	永	貴
生物学専攻	COE研究員	黄		梅

平成16年7月17日付け発令

(採用)

生物学専攻 産学官連携研究員	高	永	貴
21世紀COEプログラム「バイオとナノを融合する新生命科学拠点」COE研究員	黄		梅

平成16年7月27日付け発令

(採用)

地球惑星科学専攻	技術補助員	小	松	研	吾
地球惑星科学専攻	技術補助員	北	守	太	_

地球惑星科学専攻 技術補助員 福 并 地球惑星科学専攻 技術補助員 樋 山 平成16年8月1日付け発令	,克	,明
(450 m)		
(採用)		
21世紀COEプログラム「特異性から見た非線形構造の数学」COE研究員 Brian	Fo	rbes
生物科学専攻 科学研究支援員 定 本	、久	、世
平成16年8月16日付け発令		
(採用)		
地球惑星科学専攻 技術補助員 森 日	3 俊	<u> </u>
平成16年8月17日付け発令		
(採用)		
物理学専攻事務補助員根。	Σ.	愛
平成16年8月31日付け発令		
(任期満了)		
数学専攻 COE研究員 江	孟	苔
数学専攻 科学研究支援員 大 均	Ķ.	岳
平成16年9月3日付け発令		
(任期満了)		
地球惑星科学専攻 技術補助員 前 川	健	=
平成16年9月10日付け発令		
(任期満了)		
化学専攻 事務補佐員	幸	恵

平成16年9月16日付け発令

(採用)

21世紀COEプログラム「バイオとナノを融合する新生命科学拠点」 COE研究員	倪	旭	峰
COE研究員	Liang	Weife	eng
COE研究員	胡	薇	薇
COE研究員	田		勇

平成16年9月21日付け発令

(採用)

地震火山研究観測センター 技術補佐員

雨 宮 晋一郎

平成16年9月22日付け発令

(任期満了)

地球惑星科学専攻	技術補助員	小	松	研	吾
地球惑星科学専攻	技術補助員	北	守	太	_
地球惑星科学専攻	技術補助員	福	井		隆
地球惑星科学専攻	技術補助員	樋	山	克	明

平成16年9月23日付け発令

(任期満了)

地球惑星科学専攻	技術補助員	Ξ	浦	尚	史
地球惑星科学専攻	技術補助員	大久	八保		智
地球惑星科学専攻	技術補助員	Ξ	枝	俊	介
地球惑星科学専攻	技術補助員	今	野	祐	多

平成16年9月24日付け発令

(採用)

地球惑星科学専攻	技術補助員	大久	ス保		智
地球惑星科学専攻	技術補助員	Ξ	枝	俊	介
地球惑星科学専攻	技術補助員	今	野	祐	多

平成16年9月30日付け発令

(任期満了)

地球惑星科学専攻 科学技術振興研究員	前	田	宜	浩
化学専攻 教務補助員	神		裕	介
(辞職)				
数学専攻 COE研究員	瀬	戸	道	生
数学専攻 COE研究員	足	立	=	郎
物理学専攻 科学研究支援員	早	崎	公	威
生物学専攻 科学研究支援員	角	五		彰
生物学専攻 技術補佐員	山	本	宏	子
生物学専攻 研究員	Ш	端	弘	子
会計係 事務補助員	小	畑	佳	代

平成16年10月1日付け発令

(採用)

地球惑星科学専攻 科学技術振興研究員	前	田	宜	浩
化学専攻 教務補助員	神		裕	介
化学専攻 科学研究支援員	岡	村	昌	幸
生物学専攻 技術補助員	上	島	達	朗
会計係 事務補助員	大	槻	香	織

各種委員会委員

〈全学関係〉

図書館委員会

 $(16.7.1 \sim 18.6.30)$

数学専攻 教授新井朝雄

高等教育機能開発総合センター全学教育科目責任者

 $(16. 9. 1 \sim 17. 3. 31)$

「物理学実験」

物理学専攻 教授中原純一郎

「地学実験」

地球惑星科学専攻 助教授 川 村 信 人

情報基盤センター情報ネットワークシステム学内共同利用委員会「システム利用専門委員会委員長」

 $(16. 8. 6 \sim 18. 3. 31)$

地球惑星科学専攻 教 授 林 祥介

情報基盤センター教育情報システム学内共同利用委員会「システム技術専門委員会」

 $(16. 6. 25 \sim 18. 3. 31)$

物理学専攻 助教授 大 西 明

地球惑星科学専攻 助教授 倉 本 圭

獣医学研究科動物死体焼却炉運営委員会

 $(16.6.14 \sim 18.6.10)$

生物科学専攻 教授幸田敏明

電子科学研究所ナノテクノロジー研究センター運営委員会

 $(16. 8. 16 \sim 18. 3. 31)$

生物科学専攻 教授 川端和重

創成科学研究機構動物実験委員会

 $(16. 6. 14 \sim 18. 3. 31)$

生物科学専攻 教授幸田敏明

創成科学研究棟施設建物管理委員会クリーンルーム管理運営専門委員会

 $(16. 10. 1 \sim 18. 9. 30)$

物理学専攻 教授小池和幸

〈学部関係〉

理学研究科動物実験委員会

(16.9.25~17.9.24)(継続)

化学専攻 教授坂口和靖

生物科学専攻 教授山下正兼

ッ 教授 小池達郎

ッ 教授 加藤敦之

" 助教授 栃 内 新

ッ 教授幸田敏明

共同利用施設理学研究科量子干涉方式広温度領域磁化測定研究室運営委員会

(16.10.1~18.9.30)(継続)

物理学専攻 助教授 網塚 浩

化学専攻 助教授 今 村 平

<< Back to TOP</pre>
Next Page >>

行事予定

月	日	曜	事 項
10	1	金	第 2 学期授業開始
	1	金	修士(博士前期)課程及び博士後期課程二次試験実施の有無締切
	7	木	研究科教授会13:30
	12	火	学部学生(2年次以上)履修届受付(~13日)
	13	水	AO入試出願期間(~20日)
	14	木	国立10大学理学部長会議(東京)
	15	金	国立大学理学部長会議(東京)
	29	金	学位申請(11月付託)締切
11	4	木	専攻長・学科長会議13:30
	6	土	AO入試第1次選考発表
	11	木	研究科教授会13:30
	12	金	12月学位授与予定者の審査報告関係書類提出締切
	19	金	学位申請(12月付託)締切
	21	日	AO入試第 2 次選考
	25	木	専攻長・学科長会議13:30
12	2	木	研究科教授会13:30
	2	木	学部教授会15:30
	4	土	AO入試合格発表
	24	金	理学研究科・理学部冬季休業(~1月5日)

	24	金	学位記授与式
	24	金	全学教育部冬季休業(~1月5日)
	27	月	学位申請(1月付託)締切
1	6	木	全学教育科目授業再開
	6	木	専攻長・学科長会議13:30
	13	木	平成17年度第1学期授業時間割提出締切
	13	木	研究科教授会13:30
	13	木	平成17年度大学院授業科目シラバス原稿提出締切
	14	金	休講日(大学入試センター試験準備)
	15	土	大学入試センター試験(~16日)
	17	月	修士(博士前期)課程及び博士後期課程二次願書受付(〜21 日)
	21	金	学位申請(2月付託)締切
	27	木	全学教育科目補講日(~28日)
	27	木	専攻長・学科長会議13:30